



SAKAI 式事例検討法を簡単にご紹介します



1.

毎回、普段悩んでいる1事例についてグループで検討していきます。事例を提供しても、指摘を受けることはないので、敷居が低いです。

まず、各自で読み込み、事例のおおよその印象をまとめます。グループ内で事例の印象を述べ合い、参加者の波長を合わせます。また、生活を構成している複数の視点から、事例の全体像を見ているかどうか確認します。

1



2.

本人らしい在宅生活を継続するための「条件・前提」を各自で考えて付箋に書き出し、その理由を説明しながら順番に貼り出してグルーピング（島づくり）をしていきます。あまり無理にグループにまとめる必要はありません。

大切なことは、それぞれの「条件・前提」が相互作用を生じさせるので、じっくりと関係性を見極め、付箋（島）の配置に気を付けます。ただし、サービスの内容については一切考えないことが原則です。

2



3.

事例の潜在的な「強み」を別の色の付箋に書きだし、同じように順番に貼っていきます。先ほどあげたその人らしい生活の「条件・前提」に対して、活用できそうな「強み」があれば、該当する島の近くに貼っていきます。「強み」が対応しない島も見えてきます。たった1枚でも強力な「強み」に気づく場合もあります。

3



4.

最後に、出来上がった模造紙の島の構成を見ながら、改めてどのような相互作用が働いているか見ていきます。そして、ここが上手くクリアできれば肯定的な連鎖反応が起きるというポイント（へそ）を探し、支援のシナリオを仮説的に立てます。各グループで相互にプレゼンし、ディスカッションします。ケアマネの支援が「今までの経験から」ではなく「専門的な見地から論理的に」言語化し説明できることを目指しています。

4

